

平成 25 年度

資料 No. 8-4

J A 長野県食農教育優良組織表彰

受 賞 組 織

JA みなみ信州
竜丘支所
川路事業所

平成 2 6 年 2 月 2 4 日

長野県農業協同組合中央会

1. 取組み内容

①	実施主体	ＪＡみなみ信州竜丘支所・川路事業所	
②	活動連携組織	本所営農部、川路保育園	
③	内 容	時期	通年
		内容	◎年間を通じた川路保育園の農作業体験と食事会の体験を、ＪＡが支援する。 1. 米づくり 田植え・稲刈り・アフリカ支援米発送式 2. 野菜づくり 野菜の植え付け・草取り・収穫・収穫祭 3. 梨狩り 4. 桃狩り
		対象	川路保育園園児 30 名・保育士 8 名 保護者
④	目 的	「農（栽培・収穫）と食を結ぶ」 川路保育園が実施する食育に沿って、ＪＡが支援を行い、『「食べることは生きること」－その食べ物がどこからくるのか？』この部分を子どもたちに感じてもらおう。 また、川路地域の人との触れ合いも重視しながら、地域の伝統食の伝承や、地域の農業への関心を深めるためのプランづくりを行い、地域の伝統や農の風景を次世代・次々世代へ引き継いでいく。	
⑤	事業開始年	平成 18 年	

2. 平成25年度実施内容

月	日	内容	備考
4月		ジャガイモ植え付け	メークイン 1kg、男爵 1kg
5月		野菜植え付け	エンドウ、ニンジン、ゴーヤ、イチゴ、赤かぶ、オクラ、ゴボウ、ポップコーン、キュウリ、落花生、ナス、スイカ、タマネギ、ミニトマト
	21日	サツマイモ苗 引き渡し	紅あずま 40本、寿 40本
	22日	サツマイモ植え付け	
	28日	田植え	コシヒカリ
7月	25日	収穫感謝祭	カレー、サラダなど
	26日	ジャガイモ掘り	
	27日	桃狩り	あかつき
8月	22日	ダイコンまき	
9月	14日	梨狩り	
10月	1日	稲刈り 事前準備	
	3日	稲刈り	
		サツマイモ掘り	
11月	21日	秋の収穫祭	サツマイモおこわ、豚汁など
12月	17日	国際協力田米 発送式	

その他、地域行事などへも参加している。

- ・川路 遊休農地ジャガイモほり (7/8)

3. 支所からのメッセージ(活動の特徴等)

春のジャガイモの植え付けから始まり、泥だらけで田植えをし、みんなで相談して作った夏野菜が収穫を迎え、家に持ち帰って褒められたり、畑の野菜がごろごろ入ったカレーをみんなでいただきます。また、支所で手配した地元食材を使った給食を定期的に味わいます。暑さが和らいだ頃稲を刈り取ります。年長さんが鎌を使って稲刈りをするのを横目に、年中さんはいよいよ来年は自分たちの番だと張り切ります。保護者にとっても、家で見せる顔とはまた別のたくましい姿が見られる機会です。秋の収穫を迎えると、子どもと同じ小さな席でおもてなしを受けます。そして寒くなってきた、遠く海の向こうの子どもたちのことを心配し、米袋に描いたような、家族であたたかい食事を囲めることを願って、マリ共和国にお米の一部を送っています。お米の発送式へ電車に来て、資材店舗で年中さん年少さんへ花を買って帰る姿は頼もしくもあります。そして冬の間は、JAで提供したおがくずと牛ふんの堆肥を畑にまいて春に備えます。越冬したビオラが咲くころには、毎年ひとまわり成長した子どもたちの姿があります。きれいに咲いたビオラを抱えて年長さんは巣立っていきます。

平成18年に始まった川路保育園の食と農に触れる活動は、内容を試行錯誤しながらも確実に1年1年を積み重ね今年で7年目となりました。

食育のキーワードとして掲げているのは“食べることは生きること”。その食べ物はどこからやってくるのか、ヒントをくれる先生(農家)が川路地域にはたくさんいます。

地元有志が遊休農地を利用して作ったジャガイモほりに参加させてもらい、地元農業高校の生徒手作りのソースで収穫したばかりのジャガイモをいただく。園のそばの農家さんの桃や梨を収穫させていただく、地域の風習である餅花を作ってみるなど、郷土に寄り添った体験を通じて子どもたちは味や風景を覚えています。参観日にダイコン田楽をふるまったり、農作業経験がない若い保護者が稲刈りなどに参加して、食育への興味や期待も高まっています。ゆくゆくは地域の匂いや農の風景を引き継いでいけるように、支所を中心に地域を巻き込んだ食育の輪を広げています。

4. 活動写真



J A職員がサツマイモの植え方を教えています。



夏の収穫祭にて園でつくった野菜、地元食材はかごの中にさしていきます。





J A 職員が
年長さんに
鎌の使い方、
稲の刈り方
を教えてい
ます。真剣に
見えています。



刈ることに
だいぶ慣れて
どんどん
刈っていきます。大人は
刈り取られ
た稲を束ね
て、年中さん
年少さんが
はざまで運
んでくれま
す。はざかけ
はお父さん
と J A 職員。



国際協力米の
発送式に来賓
として出席し
てくれました。
園長先生
のご挨拶を静
かに聞いてい
ます。このあ
と子どもたち
は、マリ共和
国のお友達へ
のメッセージ
と歌を披露し
てくれました。



保育園関係
者、JA営農
部職員、労働
組合関係者、
日本通運さん、みんなで
お米を送り出
します。お米
を積んだトラ
ックが見えな
くなるまで手
を振りまし
た。



保育園児からJAへ

H25.12.17 川路保育園 園長 鈴木栄子

本日はアジア・アフリカ支援米発送式おめでとうございます。

川路保育園では毎年、支援米づくりをお手伝いさせてもらっています。今年も田植えから稲刈りと体験させていただきました。保護者も含めてはじめて田んぼにはいるという人もいて貴重な体験をさせていただいたことに心よりお礼申し上げます。

自分たちが作ったお米がマリ共和国に届けられると聞き、マリ共和国ってどんなところなんだろうと考えたり本で調べたりしました。一年中暑いところ、水が少ない、勉強するときノートがないかも、日本語は通じない・・・と同じ子どもなのに自分たちとはまったく違う生活をしているお友達がいることを知りました。そしてお米と一緒にメッセーを届けようということも子ども達は考えました。

ずっと元気でいてほしい。

つらいことがあってもなかないでね。

マリ共和国の人たちにお米をいっぱい食べてもらいたい。

元気を出してがんばってほしいです。

にっこにこになってほしい。

などと、たくさんの優しい言葉が出てきました。行ったこともない国、あったこともないお友達に思いを寄せられる子に育てていただいたこの支援米の活動に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

この子どもたちの優しい気持ちがお米と一緒に届くといいなと思います。